B—22　合繊の洗浄過程における劣化に関する研究

高知大教育　西村　久子
○吉川　せつ

1. 合繊，特にナイロン，アセテートを中心とし，織物と最近多く用いられているトリコット編地をとりあげ，それらの洗浄過程における劣化の現象を諸種の方面から追求するを目的とした。

2. 試料はナイロン，アセテートの100%およびそれらの混紡品と，対照として疎水性合繊のポリエステル，ポリプロピレンの平織とトリコット編地12種を用いた。

3. まず水による影響をみるため温度および時間の条件を変えて静置浸漬実験を行ない，次に攪拌実験によって水＋機械力の効果をみた。それらの試料を写真撮影し，引き上げ直後と乾燥後の変化を原布と比較観察し，組織の変化について検討した。またトリコット製品および織物を実際洗たく，着用をくり返した後物性の変化を測定した。

水による組織の変化は温度および時間による影響が大であったが，編地と織物との間にはあまり差が認められなかった。しかし，これに機械力が加わると編地よりむしろ織物の変化が大きく目すべりが多く，これがほつれにつながっていると思われた。基礎的実験と実際着用，洗たく実験ではその表面状態の劣化においてケバ立ち，ピリングの上から着用が相当の影響のあることが認められた。